

## 彩の国コバトンプラン実行策 (平成26年度～30年度)



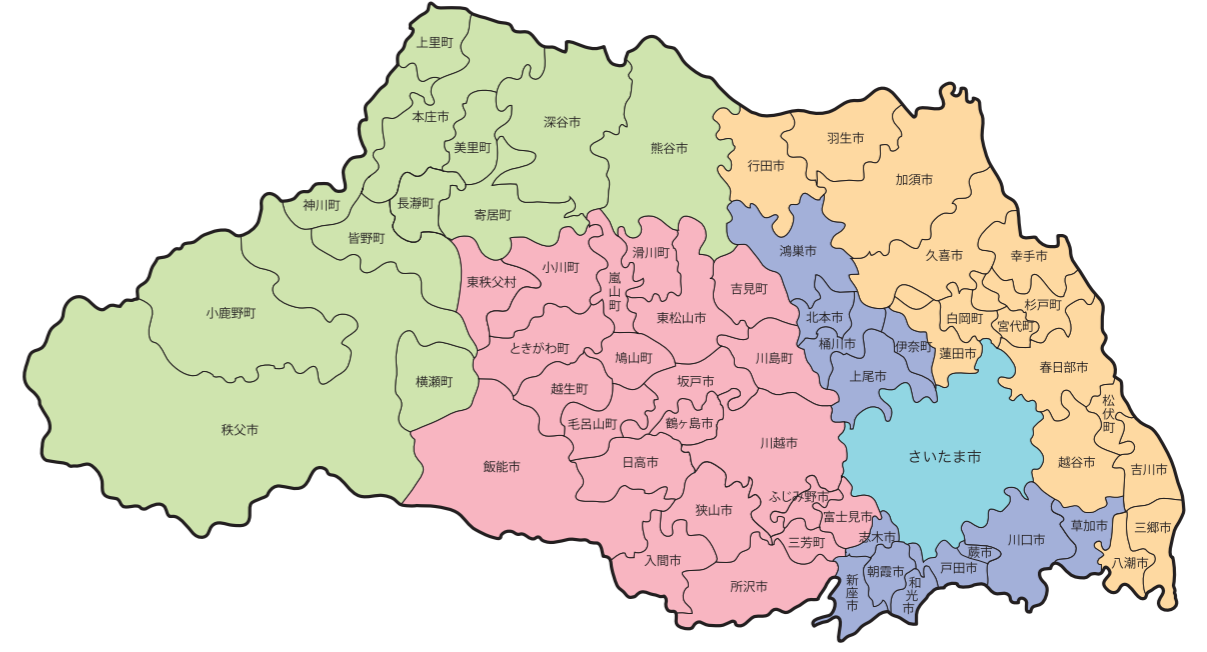
実行策は、埼事研がグランドデザイン実現に向けて、具体的行動を示すものです。  
時期を定めることで、達成状況を確認し、改善を図ります。

年次	1年次(26年度)	2年次(27年度)	3年次(28年度)	4年次(29年度)	5年次(30年度)	
埼事研	研修担当	研修中期計画の推進 研修実施主体ごとの研修の現状把握 研修ニーズの把握	研修体系の検討 SDの視点を活かした研修の企画	県教委等との連携 研修履歴カードの導入 (自己啓発支援)		キャリアモデルに沿った体系的な研修プランの提示
	研究担当	第3次研究中期計画の推進 教育課程	学校評価	学校ガバナンス	組織開発	力量形成とキャリアデザイン
	<b>研究課題</b>					
	総務担当	会の運営基盤の確立 県内実態把握、会報による周知		共同実施、学校裁量権、学校事務規程等について調査	能力開発・人材育成システムについて調査	調査結果の周知
	財務担当	財政基盤の確立		財政面からの事業の検討		
	情報担当	Webサイトによる現状周知(情報共有)	Webサイトによるデータの蓄積と提供			
市町村支援	現状把握 長期的視野による課題の可視化	改善計画案作成 関係機関との協議	市町村の実態に応じた実務研修の充実	地域に応じた研究推進(改善提案)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規程整備</li> <li>・職務の確立</li> <li>・機能・役割の明確化</li> </ul>	
会員	自らの課題を探求 学校経営参画を目指す					

# 埼玉の学校事務グランドデザイン

## 埼玉の子供たちの未来のために

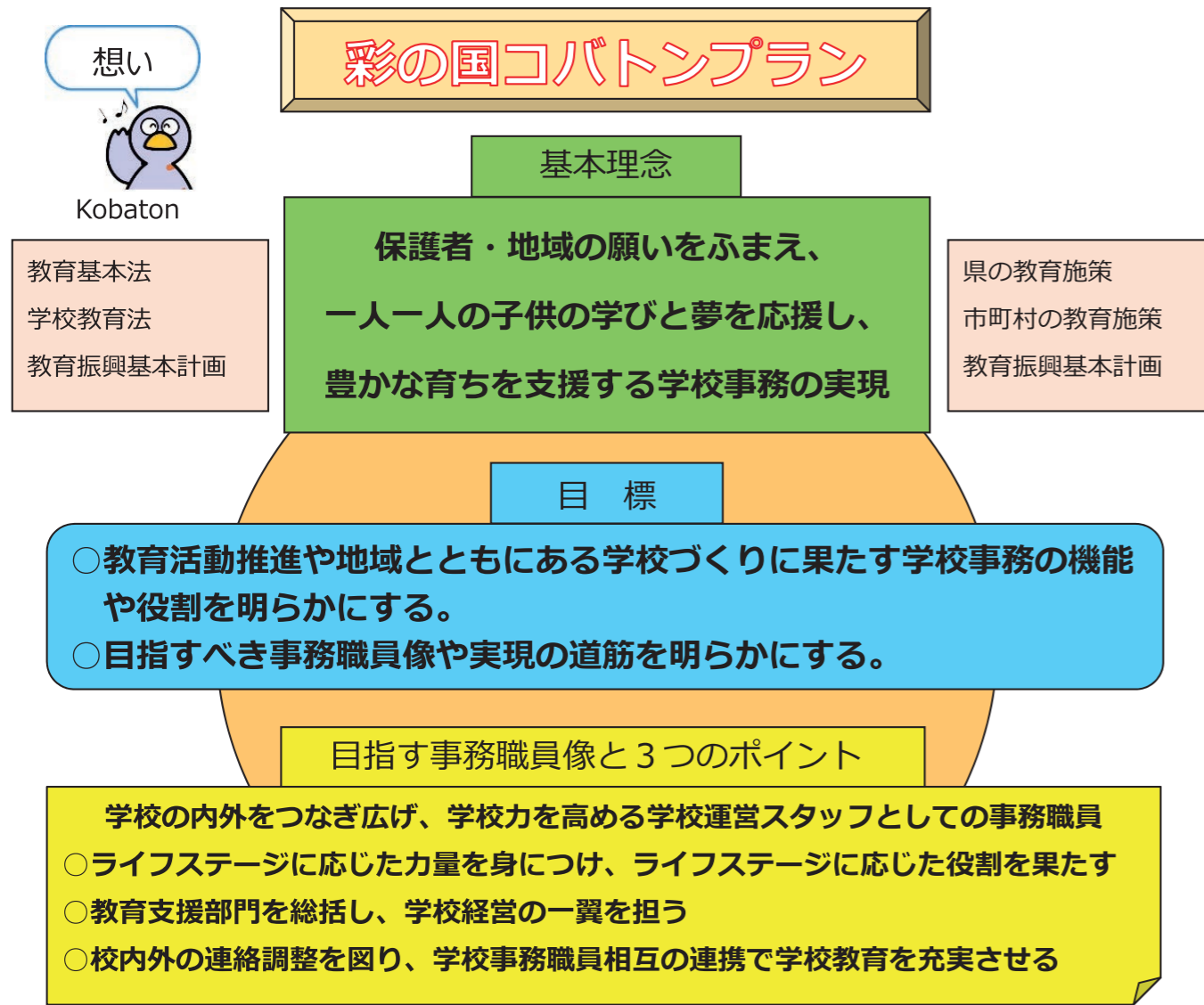
保護者・地域の願いをふまえ、  
一人一人の子供の学びと夢を応援し、  
豊かな育ちを支援する事務職員を目指します。



埼事研は平成27年度で、設立50周年を迎えました。  
50年の間に、学校を取り巻く状況は大きく変わり、学校事務に求められる役割や機能も変化しています。変化に対応し、研鑽を積みながら、私たちは未来を担う子供たちの育ちと学びの場の最前線で、子供の最善の利益のために、地域と共にある学校づくりのために、日々の業務を担っています。

平成27年10月  
埼玉県公立小中学校学校事務職員研究協議会  
<http://saijiken.com>

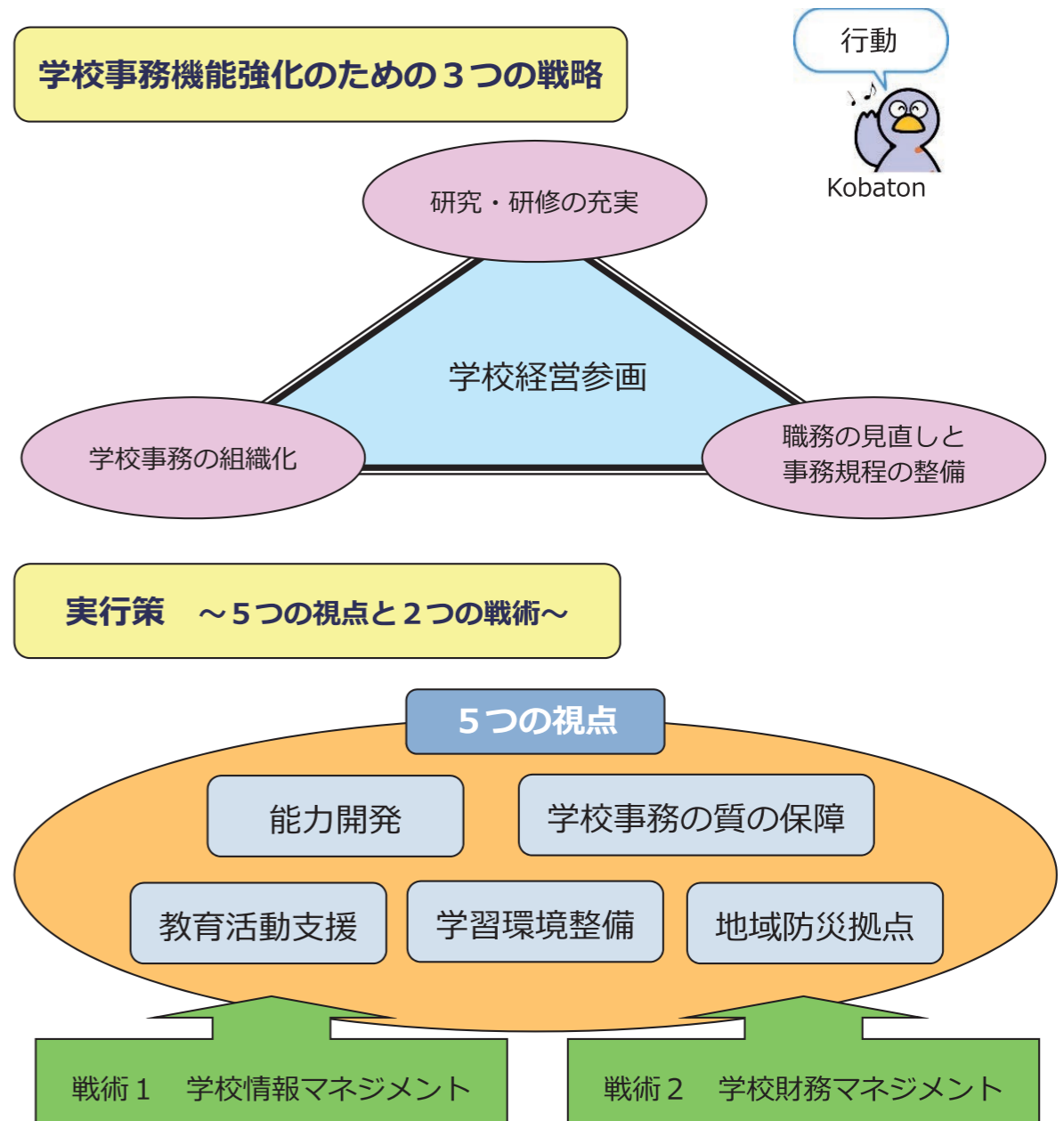




**身につけたい能力**

ライフステージ	SD(スタッフ・ディベロップメント)	役割・機能	行動と組織運営
地域リーダー期 (学び直しの5年と、 つなぎひろげる10年)	組織運営への参画 担当業務の知識 法規解釈・接遇	企画立案能力 メンタリング 地域貢献	リーダーシップ 対応力・迅速な判断 学びの継続
ミドルリーダー期B (束ねる10年)	事務処理能力の向上 情報リテラシー	企画立案能力 コーチング	リーダーシップ 調整力・的確な判断
ミドルリーダー期A (準備の5年)	児童生徒理解 コミュニケーション能力	課題解決能力 ファシリテート	リーダーシップ 効率的な事務処理
力量向上期 (学びの10年後期)	プレゼンテーション能力 組織マネジメント能力	専門的な知識 使命感	フォロアーシップ
資質育成期 (学びの10年前期)	教育課程理解 地域理解 コンプライアンス	担当業務の知識・ 情報の習得 責任感・倫理観	フォロアーシップ

【SD スタッフ・ディベロップメント】事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組を指す。



- 5つの視点で目指すもの**
- 視点1 能力開発**  
○SDによる資質向上と経験に応じた力量形成を図ります。
  - 視点2 学校事務の質の保障**  
○学校間・関係諸機関との連携を図り、質の高い学校事務を目指します。
  - 視点3 教育活動支援**  
○チーム学校の一員として教育活動を支援します。
  - 視点4 学習環境整備**  
○内外の教育資源をつなぎ、学びの環境を整備します。
  - 視点5 地域防災拠点**  
○地域防災拠点としての学校施設設備の整備を図ります。